

若狭湾海域におけるブリ漁況について

山 川 文 男

(福井県水産試験場)

はじめに

福井県において、もっとも定置網が集中している若狭海域の美浜、高浜、大飯海域の大型定置網を中心に、昭和53年～61年の9ヶ年にわたる日別魚種別漁獲量の資料を各漁業協同組合の市場（水揚仕切書伝票）から集計した。（図1，2）

調査資料は、仕切伝票に記載されている銘柄別（ツバス、アオコ、ハマチ、ワラサ、ブリ）に集計し、整理したものであり、これらの銘柄は大きさによって決められている。

しかし、漁業協同組合によって、また調査担当者によって、銘柄の名称に、ばらつきがあり、ツバス、アオコとハマチ、ハマチとワラサの名称（区別）が曖昧になっている。

これは、各銘柄の年齢推定を不正確にするが、当水試では以下のように銘柄と年齢を関係づけている。8～12月にかけて平均体重を1.1kg以下の群を0才、5～8月に平均体重0.9～1.9kg群を1才魚、2.4～3.7kgの群を2才魚と定義する。これとブリの生態等を考慮して、7～10月に漁獲されるツバス、アオコとハマチを当才魚とし、さらに7～8月を当才魚前期とし、9～10月を当才魚後期とし、4～5月のハマチとワラサを1才魚、12月～翌年2月のブリを2才魚以上と定義した。



図1 調査対象地域

ブリ……漁期は10月中、下旬と11月中～12月下旬に、盛漁期は10月中、11月中～12月中旬と12月下旬にみられる。

ワラサ……漁期は8月下旬、10月上旬、下旬～12月上旬に、盛漁期は8月下旬、10月下旬～11月下旬にみられる。

ハマチ……漁期は6月下旬～7月上旬、9月上旬、中旬、10月中～下旬、11月下旬～12月上旬に、盛漁期は11月下旬にみられる。

ツバス、アオコ……漁期は8月中旬～10月下旬に、盛漁期は9月上旬～10月中旬にみられる。

3 漁獲状況 (図3, 4, 5, 6)

ブリ……日向漁協の漁獲が最も多く、次いで和田、高浜漁協の順であるが、その他の網ではあまり漁獲されていない。

ワラサ……ブリと同様、日向漁協の漁獲が最も多く、次いで常神、丹生漁協の順で、主に調査海域の東側で漁獲が多い。

ハマチ……ブリ、ワラサ同様、日向漁協の漁獲が最も多いが、年によっては調査海域のほぼ中央の大島、高浜漁協でも多く漁獲される。

ツバス、アオコ……調査海域の東側の丹生、菅浜、日向漁協と中央の大島、和田漁協で多く漁獲されている。

4 海況との関係

(1) 若狭湾沖冷水塊とブリ漁獲量の関係

4月の若狭湾沖冷水塊の配置を3つに類型し、それとブリ漁獲量(ツバス、アオコとハマチの7、8月の漁獲量の合計で、以下当才魚前期と呼ぶ)の関係について検討した。これによるとA類型(冷水塊が沖合から若狭湾内に強く入り込んでいるタイプ:図7の昭和58年が代表例)では当才魚前期の漁獲量は多く、B類型(冷水塊が経ヶ岬から兵庫県沖合に伸びるタイプ:図7の昭和60年が代表例)では中程度を示し、C類型(冷水塊が沖合に出現しているタイプ:図7の昭和55年が代表例)では少なく、対馬暖流の若狭湾内への流れ込みと当才魚前期の漁獲量との間には高い相関がみられる(図8, 9)。

(2) 能登沖暖水塊とブリ漁獲量の関係

2月の能登沖暖水塊の配置を3つに類型し、それとブリ漁獲量の関係について検討した。

A類型(能登半島西岸に暖水塊が見られるタイプ:図10の昭和55年が代表例)では漁獲量が多く、B類型(暖水塊が能登半島沖合に見られるタイプ:図10の昭和58年が代表例)では中程度を示し、C類型(顕著な暖水塊がみられないタイプ:図10の昭和53年が代表例)では少なかった。このように、調査海域の1才魚の漁獲量と能登沖暖水塊の配置にある程度の相関がみられるがA類型の昭和59年、60年のように漁獲量の少ない年も見られ、他の要因も関係するものと思われる(図11, 12)。

(ブリ)

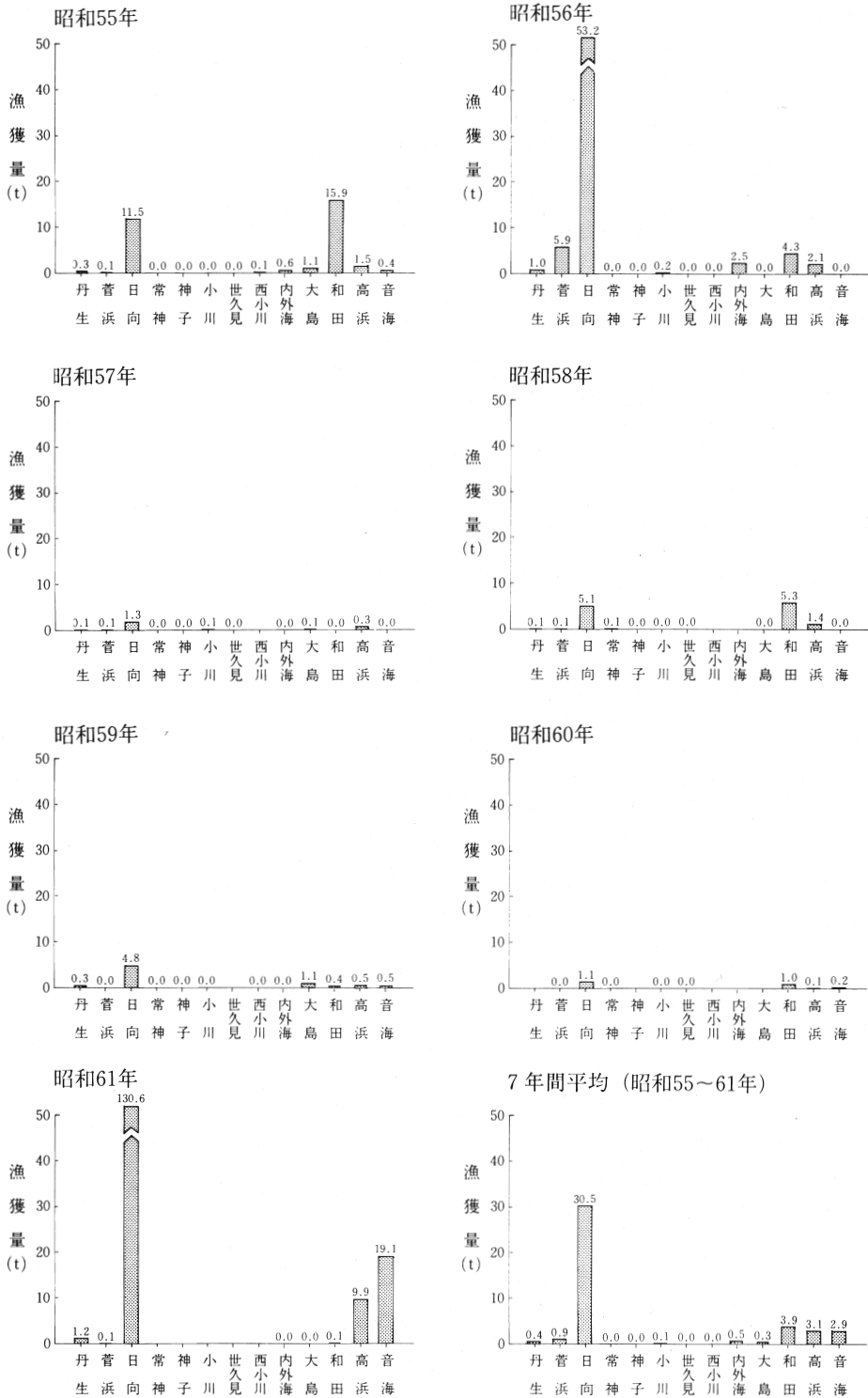
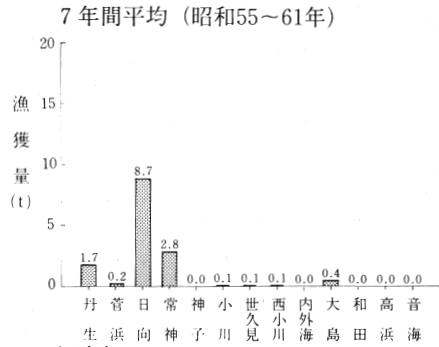
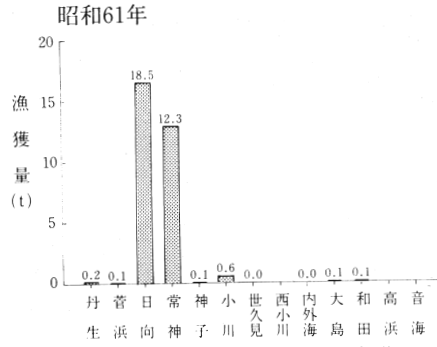
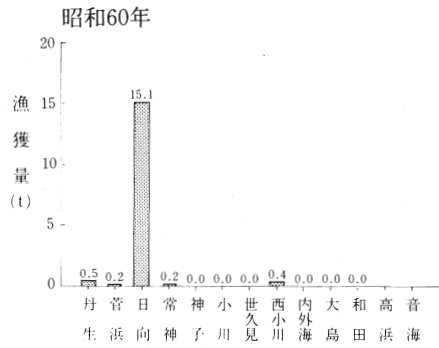
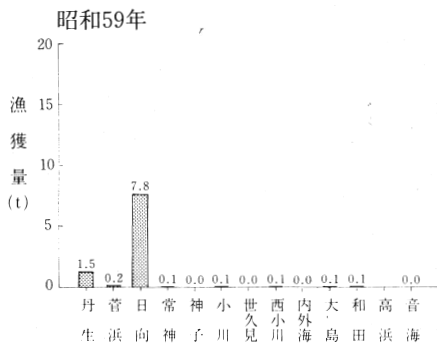
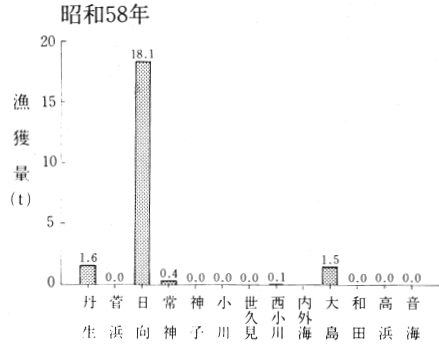
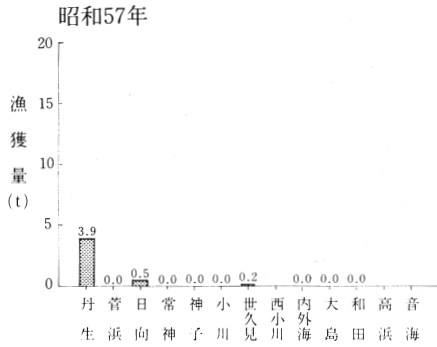
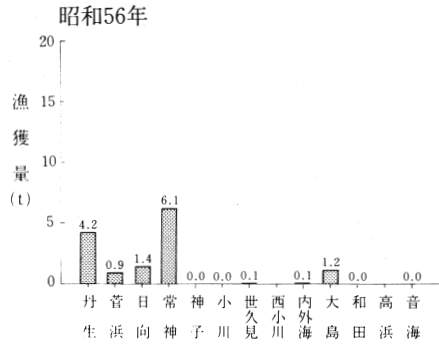
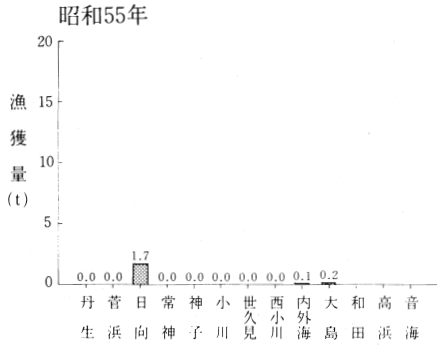


図3 大型定置網地区別年別漁獲量および平均漁獲量(ブリ)

(資料) 調査資料より作成

(ワラサ)

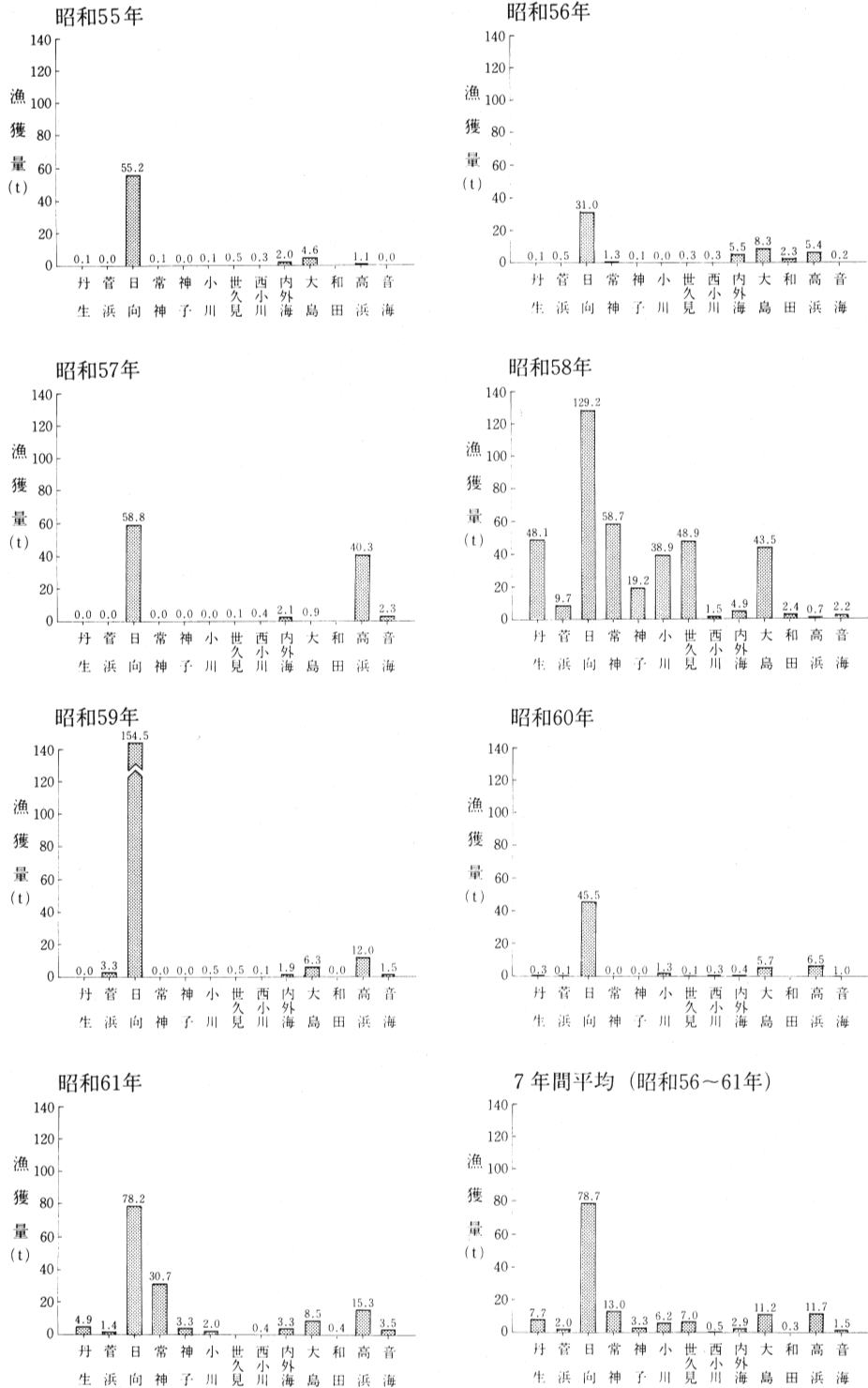


注) 漁獲量の0.0は0.05 t未滿を, 空白は0を示す。

図4 大型定置網地区別年別漁獲量および平均漁獲量(ワラサ)

(資料) 調査資料より作成

(ハマチ)

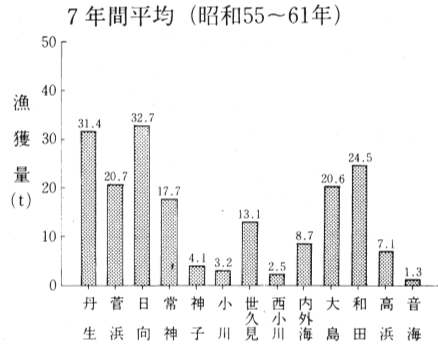
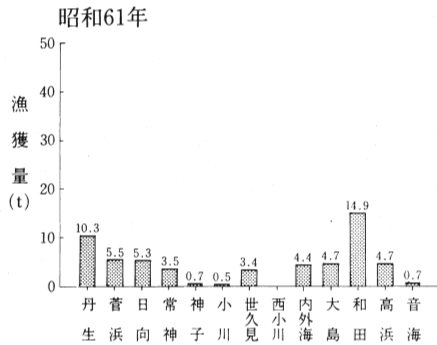
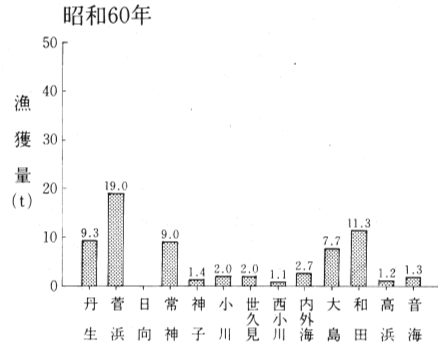
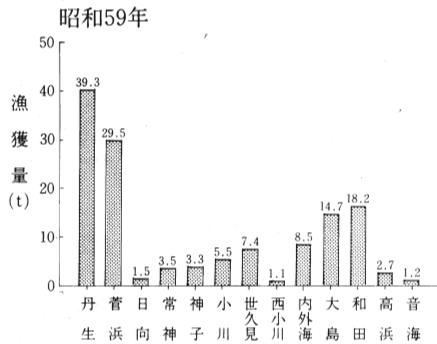
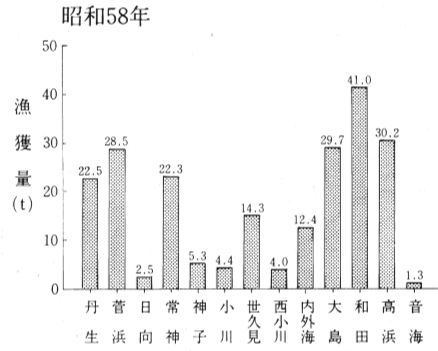
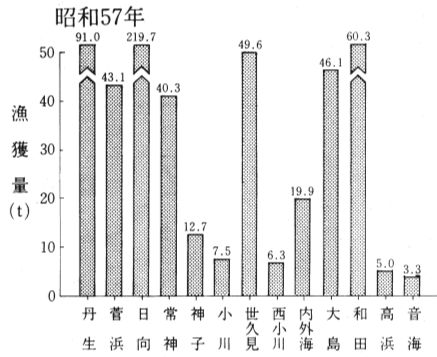
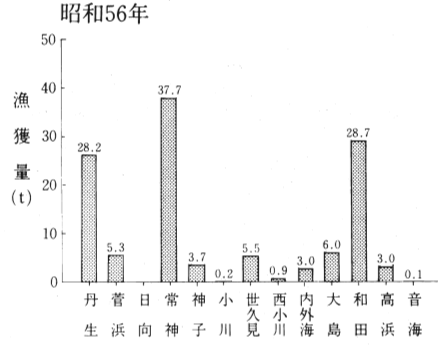
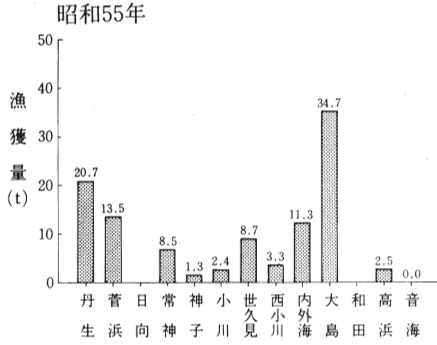


注) 漁獲量の0.0は0.05未満を, 空白は0を示す。

図5 大型定置網地区別年別漁獲量および平均漁獲量 (ハマチ)

(資料) 調査資料より作成

(ツバス・アオコ)



注) 漁獲量の0.0は0.05 t未滿を, 空白は0を示す。

図6 大型定置網地区別年別漁獲量および平均漁獲量(ツバス・アオコ)

(資料) 調査資料より作成

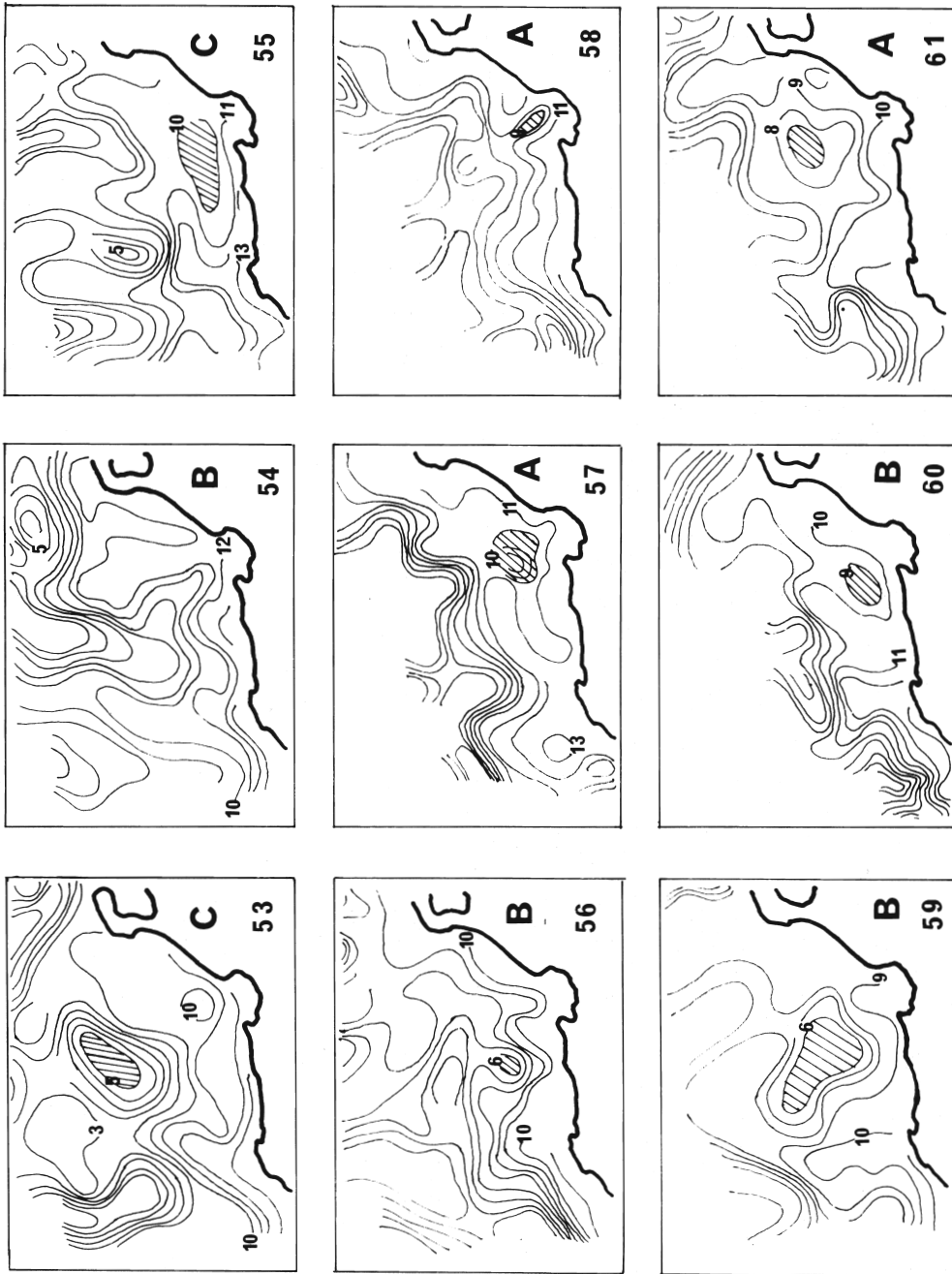


図7 若狭湾沖冷水塊配置の類型(年変化)(4月:100m層), 斜線部は冷水塊を表す.

図中右下の数字は昭和年を表す.

| 年次 | 当才魚前期の漁獲量 (t) |
|-------|---------------|
| 昭和53年 | 17.75 |
| 昭和54年 | 42.07 |
| 昭和55年 | 28.50 |
| 昭和56年 | 38.85 |
| 昭和57年 | 116.95 |
| 昭和58年 | 256.00 |
| 昭和59年 | 65.17 |
| 昭和60年 | 46.99 |
| 昭和61年 | 100.73 |

| 年次 | 若狭湾沖冷水塊の配置 (タイプ) |
|-------|------------------|
| 昭和53年 | C |
| 昭和54年 | B |
| 昭和55年 | C |
| 昭和56年 | B |
| 昭和57年 | A |
| 昭和58年 | A |
| 昭和59年 | B |
| 昭和60年 | B |
| 昭和61年 | A |

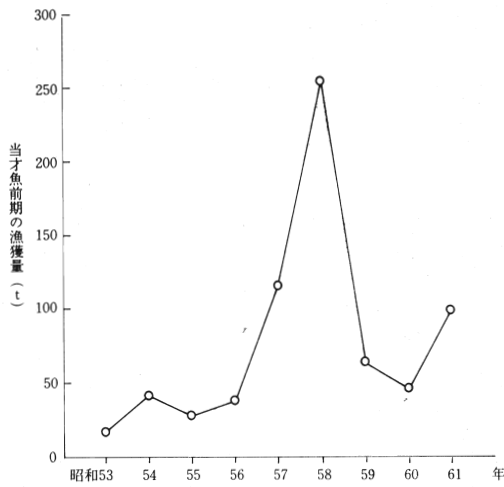


図8 当才魚前期の漁獲量 (調査海域)
(資料) 調査資料より作成

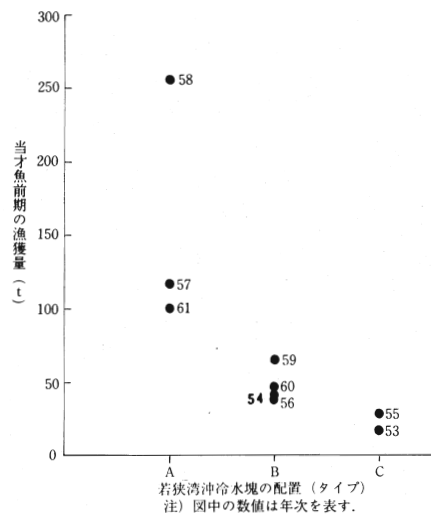


図9 当才魚前期の漁獲量と若狭湾沖冷水塊配置との関係 (調査海域)
(資料) 調査資料より作成

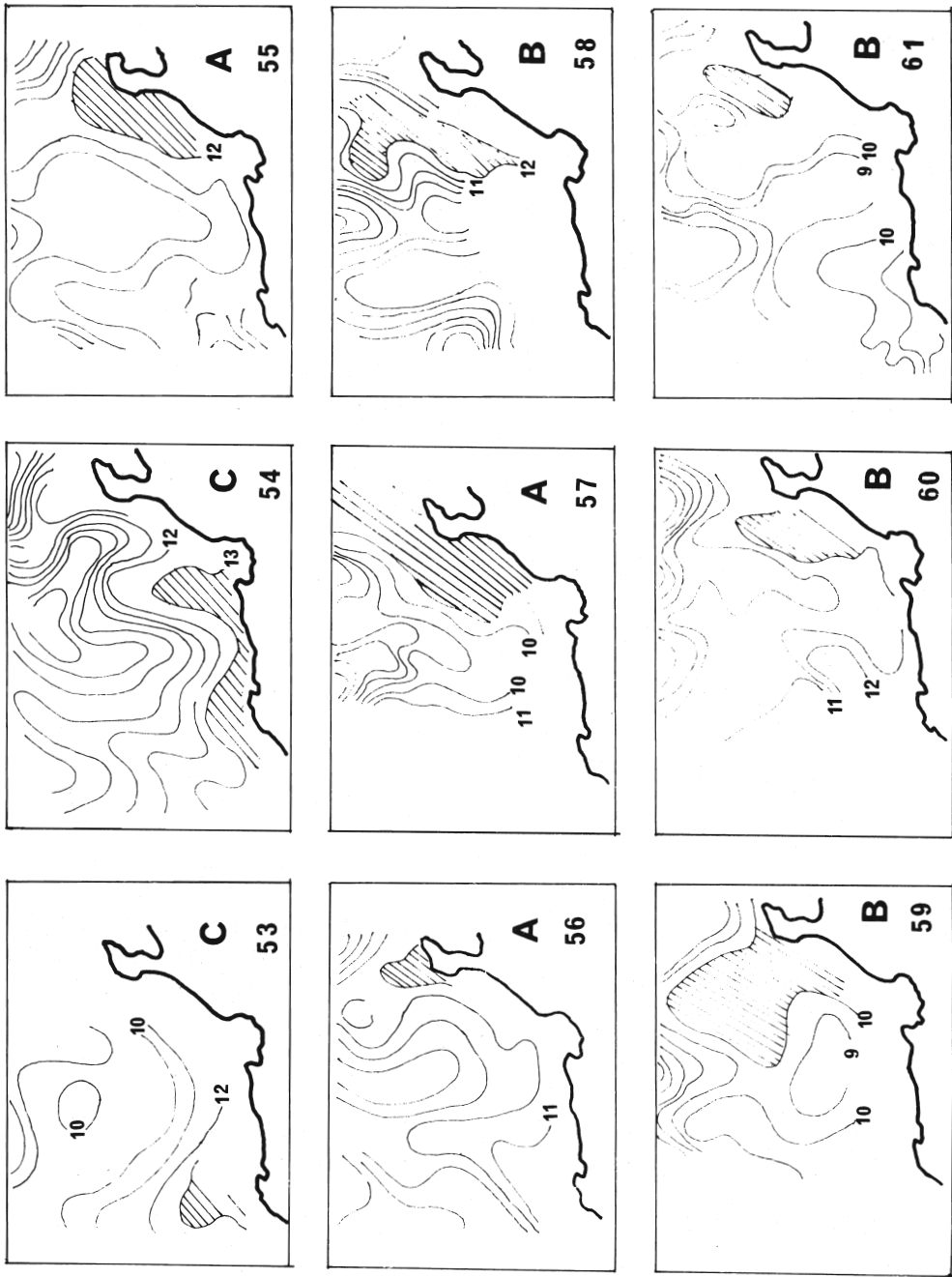


図10 能登沖暖水塊配置の類型(年変化)(2月:50m層).
 斜線部は暖水塊を表す. 図中右下の数字は昭和年を表す.

| 年次 | 1才魚漁獲量 (t) |
|-------|------------|
| 昭和53年 | 1.70 |
| 昭和54年 | 0.59 |
| 昭和55年 | 4.49 |
| 昭和56年 | 13.57 |
| 昭和57年 | 16.36 |
| 昭和58年 | 5.58 |
| 昭和59年 | 1.41 |
| 昭和60年 | 1.34 |
| 昭和61年 | 0.77 |

| 年次 | 能登沖暖水塊の配置 (タイプ) |
|-------|-----------------|
| 昭和53年 | C |
| 昭和54年 | C |
| 昭和55年 | A |
| 昭和56年 | A |
| 昭和57年 | A |
| 昭和58年 | B |
| 昭和59年 | B |
| 昭和60年 | B |
| 昭和61年 | B |

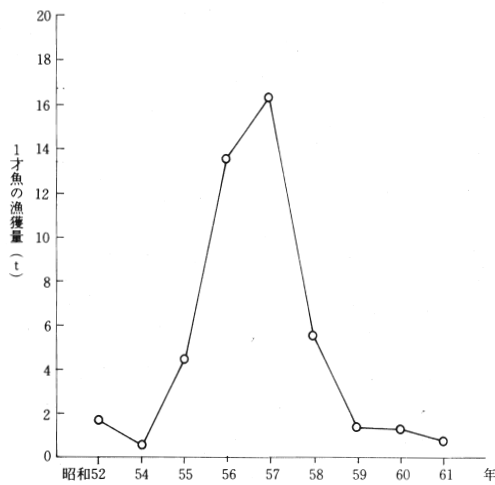
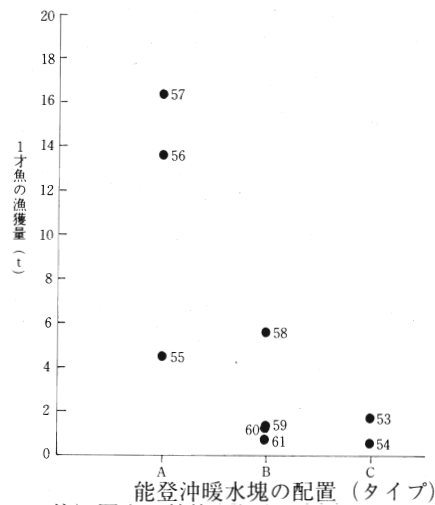


図11 1才魚漁獲量 (調査海域)

(資料) 調査資料より作成



能登沖暖水塊の配置 (タイプ)
注) 図中の数値は年次を表す。

図12 1才魚漁獲量と
能登沖暖水塊配置との関係 (調査海域)

(資料) 調査資料より作成